令和6年度
第1回茅ヶ崎市バリアフリー基本構想推進協議会
会議録

議題	(1) 茅ヶ崎市バリアフリー基本構想の中間評価について(資料1、2) (2) 茅ヶ崎市バリアフリー基本構想(やさしい版について)(資料3、4)
日時	令和6年10月24日(木) 午前10時00分～午前12時00分
場所	茅ヶ崎市役所分庁舎5階会議室A・B(オンライン会議併用)
出席者名	会 長：大原 一興 委 員：国分 宏樹、松本 大造、嶋原 謙二、高阪 利光、寺尾 恵一 白鳥 慶記、山口 洋一郎、谷久保 康平、城田 禎行、若林 英俊 柏崎 周一、瀧井 正子、沼田 ユミ、上杉 桂子、今井 達夫 牧野 浩子、石井 勇、斉藤 進、平井 靖範、深瀬 純一 (欠席委員) 委 員：栗林 康夫、大澤 武廣、小林 将人、高丸 やい子、瀬川 直人 浅川 晴美、堀場 浩平、白石 航平、海津 ゆりえ (事務局) 都市部都市政策課
会議資料	・ 委員名簿 ・ 要綱 ・ 次第 ・ 資料1 茅ヶ崎市バリアフリー基本構想の中間評価について(案) ・ 資料2 茅ヶ崎市バリアフリー基本構想中間評価報告書(骨子案) ・ 資料3 茅ヶ崎市バリアフリー基本構想概要版(やさしい版)について ・ 資料4 茅ヶ崎市バリアフリー基本構想(やさしい版)(素案)
会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	
傍聴者数	0名

(会議の概要)

1. 開会

高山課長：

定刻になりましたので、令和6年度第1回茅ヶ崎市バリアフリー基本構想推進協議会を開催いたします。

本協議会は、原則として公開となっておりますが、本日は、傍聴の申出はございませんので、このまま会議を進めます。

本日は、お忙しい中、当会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。

司会の茅ヶ崎市都市政策課課長の高山です。よろしくお願いいたします。
会議に先立ちまして4点ほどお知らせがあります。

1点目は、協議会の委員について、今年度に入り6名の委員に変更が生じております。名簿順にご紹介させていただきます。東日本旅客鉄道株式会社横浜支社企画総務部経営戦略ユニットマネージャー、国分委員、神奈川中央交通株式会社運輸営業部お客様サービス担当課長、松本委員、国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所交通対策課課長、嶋原委員、茅ヶ崎市理事兼福祉部長、谷久保委員、国土交通省関東運輸局交通政策部バリアフリー推進課課長、平井委員、茅ヶ崎市都市部長、深瀬委員。

2点目は、会議中は、換気のため、窓やドアを一部開放しております。会議中でも体調不良などがございましたら、遠慮なくお申出ください。また、発言時にはマイクを使い、お名前を名乗っていただきますよう、ご協力をお願いいたします。

3点目は、本日の会議はオンライン併用会議です。オンラインで参加する委員は、発言時以外は音声をミュートとしていただきますようお願いいたします。発言時は挙手のボタンを押していただくか、画面越しに挙手をお願いいたします。

4点目は、本日の会議は会議録作成のため、録画・録音いたしますので、ご理解をいただきますようお願いいたします。本日は、活発な意見交換が行われる会議となりますようご協力をお願い申し上げます。

それでは、本日の会議内容につきましては、議題として、(1)バリアフリー基本構想の中間評価について、(2)茅ヶ崎市バリアフリー基本構想(やさしい版)について、そのほかとして、(1)パーキング・パーミット制度について、(2)委員の改選についてでございます。

次に、資料について確認いたします。委員名簿、次に要綱、そして次第、資料1、茅ヶ崎市バリアフリー基本構想の中間評価について(案)、資料2、茅ヶ崎市バリアフリー基本構想中間評価報告書(骨子案)、資料3、茅ヶ崎市バリアフリー基本構想概要版(やさしい版)について、資料4、茅ヶ崎市バリアフリー基本構想(やさしい版)(素案)。

資料の不足等がありますでしょうか。ありがとうございます。

ここで、当会議についてですが、委員30名のところ、オンラインによる

参加も含め21名のご出席をいただいておりますので、要綱第6条第2項の規定により、会議が成立していることとなります。

ここから先の進行につきましては大原会長にお願いいたします。

2. 議題

(1) 茅ヶ崎市バリアフリー基本構想の中間評価について

大原会長 : 皆様、おはようございます。大原です。それでは、今日は議題が2件と、その他が2件ありますが、その順で始めていききたいと思います。聞こえが悪かったらご指摘ください。今日は、私、ちょっと足を怪我しまして、大分よくなっているのですが、今日は伺わずにオンラインになっています。

それでは、最初の議題、基本構想の中間評価について、ご説明をまずお願いいたします。

事務局 : 議題(1) 茅ヶ崎市バリアフリー基本構想の中間評価について、都市政策課の木村より説明させていただきます。資料は資料1と資料2を使って説明させていただきます。

まずは資料1をご覧ください。パソコンでも画面共有させていただきます。オンラインの方たち、画面共有できておりますでしょうか。

では、資料1の評価方法について順に説明させていただきます。

昨年8月に改定した茅ヶ崎市のバリアフリー基本構想ですが、基本構想の中にもお示ししておりますとおり、令和6年度までの成果について中間評価をすることとしております。そのため、本日は、その中間評価の方法について資料1にまとめさせていただいております。こちらの評価の方法について皆さんにご意見をいただきたいと思いますと考えております。また、資料2には、最終的に公表される評価報告書の骨子案をお示ししております。こちらはあくまで骨子ですので、その内容となる実績や評価の部分については、今後、詰めていくものとなります。そのため、本日は骨子案の内容の部分ではなくて、章立てですとか、構成などの骨組みの部分について特にご意見をいただきたいと思いますと考えております。

では、資料1、2を順に説明させていただきます。

まず1つ目の目的は、中間評価の結果を基本構想に位置づけた事業へフィードバックすることによって、今後のさらなる事業の推進に役立てていきたいと考えております。

評価期間は、令和5年度から6年度までの2年間といたします。

3つ目、評価対象ですが、基本構想では4つの事業を位置づけておりますので、それぞれについて評価をしていきたいと考えております。

(1) 市民・事業者・行政の3者が主体となって取り組む事業です。その中にさらに細かく4つの取組がございます。①心のバリアフリーの推進に関する取組です。こちらは5年度から6年度の実績を評価するということになります。例えば心のバリアフリー川柳ですとか、心のバリアフリー啓発ポスターや、心のバリアフリー教室などの取組が実績の例として考えられま

す。次に②施設整備に伴うバリアフリー化の関する取組の実績です。こちらは、例えば市民部会の委員の皆さんにご協力いただきましたが、当事者意見の反映などが例として挙げられます。道の駅や新たな保健所、さらにはイオン茅ヶ崎中央店様のトイレの改修の際に、当事者の皆様からバリアフリーの観点で様々なご意見をいただき、施設の設計に役立てるといった取組を行ってきました。また、③公共サインの整備に伴うバリアフリー化の推進に関する取組実績、さらに④安全な歩行空間確保に伴うバリアフリー化の推進に関する実績とありますが、それぞれ庁内の担当課などに聞き取りなどを行いながら、令和5年度から6年度の実績について取りまとめていきたいと考えております。

以上が（1）市民・事業者・行政が主体となって取り組む事業についてです。

次に（2）市が主体となって取り組む事業です。こちらは市が率先してバリアフリー化のボトムアップを図ることを目的に新たに位置づけた事業です。庁内全ての課かいが全課で共通して取り組む事業と、各課個別に取り組む事業を年度当初に掲げて、年度末にはその実績を取りまとめております。この5年度から6年度の実績を評価の対象といたします。

次に（3）重点整備地区での取組実績です。具体的には重点整備地区内での特定事業計画について、令和5年度と6年度の実績を取りまとめ、評価の対象としていきます。

最後に（4）整備促進地区です。こちらは香川駅周辺地区と辻堂駅周辺地区を指しますが、これらのエリア内での令和5年度、6年度の実績について、庁内で担当する課かいに聞き取りなどを行いながら取りまとめて評価の対象としていきます。

今ご説明した（1）から（4）の実績について、それぞれ事務局による考察をお示ししますので、その実績と考察を踏まえて、委員の皆様にご意見をいただく形を想定しております。

具体的には、今回の資料2は、評価報告書の骨子案ですが、そこに各事業の実績と事務局による考察を今年度末の第2回協議会の際に報告書の素案としてお示ししますので、その際に皆様からいただいたご意見を評価としてまとめていきたいと考えております。皆さまに何かを書いていただいたなどする必要は想定しておりませんので、協議会の際に皆さまからいただいたご発言を評価として事務局で取りまとめていきたいと考えております。

次に、評価結果の反映についてです。皆様からいただいた評価結果を基に、今後の取組の方向性を評価報告書の中でお示ししていきます。また、必要に応じて新たな事業の追加や削除などの特定事業計画の見直しも行ってまいります。

6、評価の公表ですが、今ご説明した対象となる4つの事業を令和5年度から6年度の実績と、事務局による考察、皆様からの評価と今後の取組の方

向性を評価報告書として取りまとめ公表していきたいと考えております。

最後に、資料1の2ページ目です。こちらはスケジュールについてです。本日、第1回の協議会の中で、評価方法の案と評価報告書の骨子案をご提案させていただいております。こちらのご了承がいただけましたら、今後は実績の取りまとめや、新たに特定事業に加わる事業者との調整などを行ってまいります。実績の取りまとめとともに、事務局としての考察を行い、今年度末の3月に第2回協議会を開催しますので、そちらで評価報告書の素案を皆様に提案させていただきたいと考えております。その素案を基に皆様からの評価をいただく予定でございます。そして、来年度となりますが、いただいた評価を取りまとめて、最終的に令和7年7月頃を予定しておりますが、評価報告書の案を提案させていただきまして、ご承認いただければ公表というスケジュールで考えてございます。

以上が資料1についての説明でございます。

続いて、資料2の説明をさせていただきます。

先ほども冒頭で申し上げたように、本日はあくまで骨子、骨組みのご提案となりますので、内容の部分というよりは、骨組みについてご議論いただきたいと思っております。

まず表紙をめくりますと目次がございます。目次構成としまして、1、はじめにの中で、茅ヶ崎市バリアフリー基本構想の概要や中間評価の目的、評価期間や評価方法についてお示ししております。

次に、大項目2ですけれども、各事業の進捗状況として、先ほどご説明した4つの事業の令和5年度、6年度の実績についてご紹介させていただきます。また、目次には書いてございませんけれども、実績の後に、事務局による考察を書き込む予定でございます。

次に、大項目3としまして、各事業に対する評価です。4つの事業について、それぞれの実績、事務局による考察を踏まえた皆様からの評価をこちらに記載いたします。

そして最後に、評価を踏まえた4として、今後の取組の方向性をお示し、以上を評価報告書としたいと考えてございます。

評価報告書の中身について、全ては見えていきませんが、例えば6ページの市が主体となって取り組む事業や、16ページのところに重点整備地区の事業が書かれておりますが、これらは完了した件数など、その実績を定量的に計れるものとなりますので、数字を中心にお示ししながら、ほかにもバリアフリー化が完了した写真なども添えてお示ししていきたいと考えてございます。

また、3ページの市民・事業者・行政が主体となって取り組む事業についてですが、こちらは定量的に計りづらい部分でございますので、例えば心のバリアフリー教室の実施校が何校実施できたとか、極力数字で表せる部分は表していきませんが、その実績について、写真や文章を交えながらご紹介して

いきたいと考えてございます。

以上、本日は資料1にお示した評価の方法についてと、資料2の評価報告書の骨組みの部分についてご意見をいただければと考えております。

事務局からの説明は以上となります。よろしく願いいたします。

大原会長 : ありがとうございます。

説明にありましたように、次回に向けて、事務局のほうで、実績をまとめて考察をして、考察を考察するというか、我々の視点からまた意見を入れて、最終的な見直しの報告書とするというようなこととなります。その流れや視点について、今日のご意見をいただくということです。皆さんからご意見、ご質問をお願いしたいと思います。

上杉委員 : 今日の内容についてはしないということなのですが、文章表記についての質問するのは。

事務局 : 気になることがあればどうぞ。

上杉委員 : 例えば「行政」という表現と「市」という表現が混在しているんですが、資料を見ていけば、めくった目次のところに、2. 1「市民・事業者・行政が主体となって取り組む事業」、2. 2「市が主体となって取り組む事業」と表現が気になるんですけども、2. 1の行政というのは、例えば県行政や市行政をまとめて行政と表現しているのでしょうか。

あと、資料1の2の評価期間についてなんですが、よく期間についての表記が、令和5年4月から6年3月31日までみたいにかいてあるのか、支障がないなら構わないんですけども、皆さんのご意見によっては変えてもいいかなと思います。

以上です。

事務局 : 事務局からお答えさせていただきます。

まず、1つ目のご質問ですけれども、上杉委員のおっしゃるとおり、「行政」と「市」という言葉が出てきておりますが、「行政」については市だけではなくて、国や県も含めての表現でございます。「市」という表現は茅ヶ崎市を指しておりますので、そのような使い分けをさせていただいています。基本的には基本構想から言葉を引っ張ってきておりますので、そちらに沿った形で書かせていただいております。

2つ目のご質問につきまして、令和5年度から令和6年度という評価期間ですけれども、あくまで令和5年の4月1日から令和7年の3月31日までのことですので、その辺は誤解がないようにしていきたいと思いません。

寺尾委員 : 建設部の寺尾です。ご質問します。

3ページの2. 1の心のバリアフリーの推進というのは確かに評価はすごい難しいと思ったんですけども、前計画のときの評価の仕方がどうやっていたのか聞きたいんですけども、こういうことやりました、ああいうことやりましたとか、言葉だけでやっていたのか、というのをまず聞きたい。

- 事務局 : 事務局、木村よりお答えさせていただきます。
前回のときも、言葉でご説明をさせていただいています。
- 寺尾委員 : そうした場合に、心のバリアフリーの推進は重要な部分だと思うんですけども、例えば市民の人たちがどれだけ心のバリアフリーというのを認知しているかというのを計る取組というのを定量的に簡単なアンケートだったり、例えば今、LINEだったりで、SNSを使ったプッシュ型の配信をやっていると思うので、そういうのを使って、市民がどのぐらいそういうことに対して意識があるのかなのかというのを計っていくというのも、数字が出てくるので、それがいいかなと思ったんですけども、そういうのは例えばどうでしょうか。
- 事務局 : ありがとうございます。ぜひ取り入れていきたいと思います。
- 大原会長 : 事務局から前向きなお返事があったので、大変心強く思っております。といっても、調査するというのは、結構大変なことだと思うんですが、茅ヶ崎市では定期的に市民意識調査みたいなことをやられていたんじゃないかなと思うんですけども、そのあたり、バリアフリーの項目、バリアフリーへの意識動向というのは入っていたものでしたっけ。ご存じでしょうか。
調査をすることは大変重要だし、ぜひやられるといいと思いますが、何分大変なことなので、茅ヶ崎市で定期的に市民意識調査をしているのではないかなと思うんですが、その中にバリアフリーとかユニバーサルデザインに関しての内容というのは含まれていたんでしょうか。もし手頃な時期にそういうものがあれば参考になるかなと思ったんですが。
- 事務局 : 事務局の木村よりお答えさせていただきます。
定期的に意識調査は市で行っております。ただ、項目としてそのような項目があったというところは確認してまいりますので、活用できるものがあれば活用していきたいと考えております。
- 大原会長 : 分かりました。それでは、ついでにそういう項目もぜひ入れていただくように、入っていなかったとすれば、お願いできればいいかなと思いました。
それでは、質問、ご意見など、続いてございますか。
- 斉藤委員 : 皆さんのご意見もあったんですけども、やっぱり気になるのは、実績をどういうふう把握して、それを事務局が評価するということなんですけれども、実績の把握の方法、今、先生がアンケート等の話をしましたけれども、実績の把握というのをかなりきめ細かくやる必要があるのかな。それから、報告書そのものが、市が素案をつくって、協議会に諮るということなんですけれども、市の評価となると、少し主観的になることもあるんじゃないかなと思うんですね。そういう意味で言いますと、実績の評価というのは、かなりきめ細かく、先ほどのアンケートも含めてなんですけれども、あるいは利用者、ニーズ、そういった声、全部やれとは言いませんけれども、重点的な事業については、各団体、障がい者団体等に協力していただきながら、この事業はどうだったかという声、ユーザー、利用者の声を聞くということも必要

なのかな。そうじゃないと、これを見ますと、市のほうで全部きれいに分析して、最終的に外部の評価を受けるとなっているんですけども、内部の評価のときにやっぱり外部の人たちの評価というんですかね、使ってどうだった、あるいはこういった整備が行われたんですけども、やっぱりこういったところが問題だった、そういう声も聞く必要あると思うので、先ほども皆さん、意見も出ていたのですが、その過程で可能な限り、全部とは言いません、これだけの事業は大変ですから、重点的な事業については、やっぱり目玉となる事業については利用者、ユーザーの声をきちんと反映して、行政がまとめて、それを素案、たたき台として、協議会に諮るみたいなことをぜひやっていただきたいというのが1点です。

それから、特定事業については、これはこの間、各事業者にか何かいろいろ情報提供、こういうことをやるので、事業の進捗状況をいろいろチェックしたり、重点的に取り組んでくださいなんていうような話合いはなされているんですかね。

事務局 : 事務局の木村でございます。お答えさせていただきます。

2つ目のところですけども、特定事業者に対してですが、今年度の5月、事業者の皆様にお集まりいただきまして、意見交換会を開催させていただきました。内容としましては、昨年度の取組結果と、協議会の皆様からいただいた意見を事業者の皆様フィードバックさせていただくと、さらには他社の事例などを共有する場所を意見交換会として実施させていただきました。

斉藤委員 : そうすると、大変よろしいと思いますけれども、この事業評価するに当たって、短期、中期、長期の事業仕分けを最初しましたけれども、その辺の説明で、今回、どういう、短期、中期、どういう評価をしてほしいのかという説明もされていますか。

事務局 : 評価については、その際にはご説明していません。

斉藤委員 : ということで言うと、私が思うのは、まとめておいてくれとなると、事業者のほうは、その間、きちんとデータ等整理されていなくて、急遽、じゃ、6月にまとめるかみたいになって、大ざっぱになってしまうと思うんですね。5月にやってあるのであれば、各月単位で、順次、最終的には今年度こういうことで事業評価をやるので、それぞれ、短期ではどうだったか、あるいは、中期に向けてどういうふうな取組をするのか、そういうコメントをきめ細かく書いておいてください、そういうことをやらないと多分、これは私も責任を感じているんですけども、年度末にまとめておいてくださいと、特定事業者の担当者というのは忙しくてそんなことやっていられないわけですね。ですから、時期をうまく選んで、2～3か月に1回はそういうふうな投げかけをしながら、事業の実績、それから、進まないとすれば、どんなどころに課題があるのか、そういったことを書き留めておいてください、それをまとめて年度末の評価にデータとして提出していただきたいということで、あくまでも特定事業者にそういう考える時間とまとめる時間、それ

から、それを皆さんで見て、よりよくしていくという協議を、話し合いをしていく、そのネタになるようなものを特定事業者の担当者の方につくっていただきたいというふうにぜひお願いしてほしいですね。その辺、変な言い方ですけれども、おざなりになり得るかもしれないですね。1年間やりました、やりませんでしたで終わっちゃうので、その過程のところをきめ細かく説明したりお願いしたり、データのまとめ方をこういう視点でお願いしますということをお伝えすると、年度末に我々がそれを受け取ったときに、評価というんですか、外部評価がしやすくなると思いますので、ぜひそういったことをきめ細かくやっていただきたいと思いますと思います。

以上です。

事務局 : ありがとうございます。事業者のほうへはできるだけ早いタイミングでお声かけしながら、きめ細かく評価に向けて準備していきたくて考えております。

大原会長 : ありがとうございます。評価には、自己評価と外部評価、それから総合評価というものもあって、その総合評価というのが事業者間の意見交換会だと思うんですけれども、先ほど言われていた意見交換会、情報交換会というのは、この評価の時期には、スケジュールの表の中には書いていませんけれども、途中、どこかで行われそうですか。

事務局 : 意見交換会につきましては、評価のスケジュールの中には今のところ入ってございません。ただし、年に1度は今後設けて開催していきたくて考えておりますので、評価していただいた結果をフィードバックする際に意見交換会を、来年度も開く予定で考えております。

大原会長 : 分かりました。それでは、少なくとも評価途中で実績や何かを出していただくと思うんですけれども、その際の速報というか、取りまとめぐらいの段階で、文書では、それぞれの特定事業がどんなふうになっているかということを知ることが大事だと思うので、それによってまた自分たちの事業の評価も変えるとか、視点を変えてみるということがあるかと思っておりますので、会自体を開くのは時期的に難しいとすれば、資料、情報共有みたいなものをできるだけ事業者にも途中で流してもらいたいかなというふうに思います。我々も次回の協議会のちょっと前に事務局のほうで取りまとめた評価案というようなものを見せていただけるんですよね。ですから、できたら、それぐらいの時期にお送りできればいいんじゃないかなというふうに思いました。

事務局 : 早めに、委員の皆様もそうですし、事業者の皆様にも共有できるようにしていきたいと考えております。

嶋原委員 : 国土交通省の横浜国道事務所の嶋原と申します。よろしくお願ひいたします。

ちょっと細かな話になるのですが、資料2の16ページ、17ページ、重点整備地区の中の各事業者さんの事業数が書かれているんですが、私は今年から

委員になった関係もあって、基本的なことをお聞きしたいんですが、ここで言われる事業数というのは、そもそもまち歩き点検とか、そういうものでピックアップされてきた、この範囲内で行われる各事業者で登録している事業の数というのが入るということでしょうか。

事務局 : 事務局の木村よりお答えさせていただきます。

事業数につきましては、特定事業計画に位置づけられた事業の数となります。特定事業計画は、事業者ごとに持っているものでございますので、その事業者は特定事業計画に書かれた事業を年度ごとに報告していただく必要がございます。特定事業計画の中に掲げられた数が事業数でございます。

嶋原委員 : 聞いているは、まち歩き点検でうちのほうはそれをピックアップして事業にしたということなんですけれども、そういうもので選ばれて事業化したものもあるということでしょうか。

事務局 : はい。ございます。この特定事業計画を定める際に、まち歩き点検ですとか、市民からの意見募集などをさせていただいて、バリアフリーの配慮が必要な事項を取りまとめたものを基にして、特定事業計画を事業者の皆様につくっていただいたという経緯でございます。

嶋原委員 : その際に目標とか、そういう年度とか、示されているんでしょうか。

事務局 : 特定事業計画は、短期と中期と長期という形で目標年度がそれぞれ事業ごとに示されております。

嶋原委員 : その際に、例えば短期のものでこれで終わりましたと事業者が言ってきたときに、基本的にこちらで対策が終わったということで、一方的に宣言していいものなのか、それとも、例えばまち歩きで終わったときには、まち歩き点検のときのメンバーとかの枠組みで見ていただいて、それを完了とするのか、決まっているんでしょうか。

事務局 : 今考えているのは、あくまで事業者様が完了と言われたものについては完了したものというふうにカウントしていきたいというふうに考えてございます。ただ、数字だけではなくて、できれば、まち歩き点検とまでは言わないですけれども、例えば写真等と一緒に報告していただいて、それをこの協議会の場で皆様に共有させていただきますので、それを評価していただくというようなことを考えております。

嶋原委員 : ありがとうございます。

大原会長 : ありがとうございます。

寺尾委員 : 建設部の寺尾です。同じく資料2の6ページ、2.2の主体的になって取り組む事業というところで、庁内各課が担当するような、やってきますということだと思っておりますけれども、そこで、課かい数は86ですと書いてあるのですね。1行目の後半、各課かいからの報告に基づきということ。86という数字が(1)から(2)、(3)という形で、令和5年、何課があって、令和6年、どれだけできたという進捗が多分これで出てくると思っておりますけれども、そもそも例えば普及啓発、心のバリアフリーの普及啓発、R5、2

7課、31%と書いてあるのですけれども、対象が86課なのか、全部で86課対象なのかというのが、これだけ分かりにくいのかなと思って、何か表現の仕方を工夫してみたいかと思ったのですが、その辺、いかがでしょうか。

事務局 : ありがとうございます。分かりづらさについては今後工夫してまいります。そもそも、市が主体となって取り組む事業には大きく2つございまして、1つ目が、全課が共通して取り組む事業というものです。もう一つが、各課個別に取り組む事業というものがございます。1つ目の全課が共通して取り組む事業については、86課全てが取り組むことというふうにしてございますので、86課のうち何課がクリアできたのかというものでございます。2つ目に関しましては、各課それぞれの事情に合わせた個別のものとなりますので、その中で何課がクリアできたのかというところになります。その辺の説明を踏まえて表現の仕方を工夫していきたいというふうに考えております。

大原会長 : 目標数と進捗状況を表すパーセントの母数のあたりをそれぞれ分かりやすく表現してもらえればいいかなと思います。ついでに言うと、これはどこの自治体でも同じように、一応何%、進捗率何%みたいに書いていますけれども、大体母数というのは事業の項目の数を母数としているので、本当に小さいものから大きな建物を1棟建てるとかというようなところまで、規模がまちまちなんですね。なので、あまりこの数字のところ、数字だけにとらわれないように皆さん評価していただければいいのかなというふうに思います。

ほか、よろしいでしょうか。

平井委員 : 関東運輸局バリアフリー推進課の平井と言います。

資料1の評価対象で、(1)の①施設整備に伴うバリアフリー化の推進に関する実績、当事者意見の反映とあって、資料2の4ページ以降に、施設整備に伴うバリアフリー化の推進であるとか、公共サインの新設であるとかということで、実績の記入とあるのですけれども、こちらについては、当事者の意見というものはどういったものがあつたのか、それに対してどういう実績があつたのか、何を行ったのか、さらに、意見はあつたけど、まだ反映できていないもの、今後の取組をどうするのかというところが、どういうふうに記載されていくのかなというところを教えてくださいと思います。

事務局 : 今お話になった②の施設整備に伴うバリアフリー化の推進の中で、実績の例として挙げております当事者意見の反映ですけれども、どこまで記載されるのかというところでございますが、もちろんやった実績、どこでやったのかというのはもちろんですけれども、どういったお声があつたかということも、できる限り載せていきたいと思っております。また、その成果についてどのように反映されたのかという部分も、極力、書いていきたいと考えてお

ります。

大原会長 : このあたりが、先ほどからご指摘がありましたけれども、なかなか現場のユーザーの意見を聞くというところが大変大きな仕事というふうに思います。そのときに、もしできれば、この基本構想を立てるときに、まち歩き点検などを皆さんとしたかと思うんですね。それぞれの建物のときに実際に点検をした人が、その後、事業が進んで、いろいろな整備がなされたという違いをどんなふうに評価するかをぜひお聞きしたいと思うので、可能であれば、まち歩き点検、つまり、調査の段階で、どういうところが課題かというのを指摘した人たちにぜひ見てもらいたいなという感じがしています。その際の名簿などがあれば、ぜひそういう人にも声をかけてご意見をいただくということにしたらいいと思いますが。

事務局 : まち歩き点検した方々にもぜひご意見を聞いていきたいと思います。

大原会長 : それでは、そういう形で進めながら、できるだけ進捗状況というか、こんな感じでやっていますというのを委員の皆さんに早めに、次回までの途中の段階で情報を流していただければいいかと思います。また、その中間で進め方のご提案などももらえるかなというふうに思います。

それでは、1件目の議題に関してはそんなところでよろしいでしょうか。

(2) 茅ヶ崎市バリアフリー基本構想（やさしい版）について

大原会長 : それでは、2つ目、やさしい版、これまでいろいろご意見をいただいて、具体的に、やさしい版の編集をされてきたかと思うんですけども、それまでの経緯も含めて説明をいただきたいと思います。

事務局 : では、議題2に進ませていただきます。議題の2は、茅ヶ崎市バリアフリー基本構想（やさしい版）についてでございます。資料は3と4を使って説明いたします。

資料3は、やさしい版のこれまでの経緯と今後の作成方針についてまとめたものでございます。資料4につきましては、その作成方針に基づいて、作成したやさしい版の素案となります。この議題2についても、まずは資料3の作成方針についてを中心にご意見をいただいて、続いて、資料4の素案について、ご意見をいただきたいと思っております。

まず、資料3をご御覧ください。初めに、これまでの経緯についてです。やさしい版については、今年1月、令和5年度第2回協議会の際に骨子案を提案させていただきました。画面のほうで、そのときの骨子案を共有させていただきたいと思いますが、こちらが今年1月、令和5年度の第2回協議会の際に提案させていただいた骨子案でございます。そのときの対象は、小学4年生程度としておりまして、目的は3つございました。1つ目が、多様な方々が情報を知る環境を構築するため、2つ目が、バリアフリーを学ぶ補助教材として、市内小学校で活用するため、3つ目が、市民部会と一緒に進めている心のバリアフリー教室で活用するためといったものです。つま

り、当初は、目的として多様な方への情報保障と学校現場での活用の大きく2つを目的としておりました。そのため、対象は、心のバリアフリー教室の対象である小学4年生程度としておりました。

それに対して、委員の皆様からいただいたご意見としましては、わかりやすい版は、小学生だけではなくて、いろいろな条件で難しい言葉などが理解しづらい人のためにつくられるものだと思うや、当事者団体や、やさしい日本語の活動をしている団体など、いろいろな人と一緒につくっていったほうがよいのではないかなどのご意見をいただきました。

次に、素案の初校を3月6日に、委員の皆様へメールで照会をかけさせていただきました。先ほどの骨子案を基にいただいたご意見などを踏まえながら、素案の初校を3月6日に、委員の皆様へメールで照会させていただいたのが、今、画面で共有させていただいているものです。そこでは、主なご意見としまして、デザイン、イラストに関するご意見や、ルビの対応が不統一などの文字や言い回しに関することについてご意見をいただきました。

それらの意見を踏まえまして修正したものを(3)ですけれども、素案の再校として提案させていただいたのが、前回の3月27日の協議会となります。画面でも映し出されておりますけれども、こちらが直近、前回の協議会で提案させていただいたものでございます。

そこで出たご意見としまして、主なものですが、漢字表記か平仮名表記か統一したほうがよいや、表現を平たく分かりやすいものに変えたほうがよい、小学4年生が対象ではやさしくない、できるだけいろいろな人に分かりやすく説明してほしいなどのご意見をいただきました。

これらのご意見をいただき、都市政策課の回答としましては、小学4年生を対象にしたのは、心のバリアフリー教室での活用を考えているためであると、そういった内容の回答をさせていただきましたが、結果として、皆様のご意見を踏まえて、今後、修正案を提案することとして、前回の会議が終了しておりました。

次のページにお進みください。2ページ目です。その他としまして、こちらは協議会の場ではないのですが、今年度の第1回市民部会を開いた際に、委員の方から、知的障がい者の知的能力は8歳から9歳を下回る、どこに焦点を当てるか明確にしたほうがよいのではないかといったようなご意見をいただきました。

これらのご意見を踏まえまして、その後、事務局として、素案の修正作業を進めていたのですが、なかなか作業が思うように進みませんでした。2つの課題を書かせていただきましたが、これまでの経緯や、皆様からのご意見を踏まえて、課題を2つ捉えております。

(1) 目的と対象が絞れておらず、委員の皆様とも考えが一致していないというところです。事務局としては、多様な方への情報保障と学校現場での活用という大きく2つの目的を設定し、対象として、心のバリアフリー教室

が行われる4年生としておりましたが、4年生でもやさしくないといったご意見や、小学4年生までに習う漢字は漢字表記、習わない漢字は平仮名表記としておったのですが、そもそも漢字と平仮名が混在して読みづらいというようなご意見もいただいております。

また、(2)現状の素案は、概要版の内容とは乖離してきておまして、概要版のやさしい版とはなかなか言い難い内容となってきました。これらを踏まえて、今後、作業を進めていくには、再度、目的と対象をしっかりと設定する必要があると思ひ、書かせていただいたのが、3の今後の方針でございます。

(1)目的としまして、これまでは大きく2つの目的を添えておりましたが、今回は概要版の情報保障の1つに目的を、まずは絞らせていただきたいと考えております。バリアフリー基本構想の概要版に書かれていることを知ってもらうことを目的にしていきたいと考えております。

(2)としまして、その対象となる方を第1に知的障がいのある方と考えております。そのほか、多様な方々とありますが、まずは知的障がいのある方を念頭に置きまして、その他、日本語が苦手な外国籍の方や、小学生にもやさしいものになればというふうと考えております。

(3)としまして、これらを踏まえて4つの作業方針を示しております。①難しい日本語はやさしい日本語に変換する、②基本構想と直接関係のない内容は削除して極力シンプルなものとする、③重複する内容は削除して、やはりこちらも極力シンプルにしていこうというものです。④カラーバリアフリーの観点ですが、彩度を高く、コントラストがはっきりした色を使用するというもの、これらを作業方針としてまいります。

この方針に基づいて作成したのが、今回お示ししている資料4、やさしい版の素案となります。前回の会議からは大分姿を変えて、また皆様へのご提案となりましたが、今回のご提案に至る前段としまして、先月、9月18日ですけれども、市民部会の委員の皆様にお声がけをさせていただきまして、任意でのご参加となりましたが、一度、この作業方針と、それに基づいた素案をご提案させていただきました。その中では、作業方針としては特に異論なく、素案については一部修正のご指示をいただきましたので、その修正を踏まえて、今回、皆様へご提案をさせていただいております。

最後に、4つ目、今後の展開ですが、本日、修正した素案をご提案し、修正の作業が必要であれば、11月中に修正の上、必要に応じて再度、市民部会の委員の皆様、また、任意のご参加とはなりますが、意見交換を行い、3月の第2回協議会の場で案を提案させていただいて、4月に公表というような流れを想定しております。

以上が資料3についての説明でございます。

続いて、資料4ですが、こちらが実際の素案となります。簡単に内容を説明させていただきますが、仕上がりは、本日皆様にお配りしたように、A3

を二つ折りにして、A4サイズになるように仕上げます。両面印刷で、1ページ目が表紙、ページを開くと、見開きで2、3ページ、裏表紙が4ページという仕上がりになる予定です。

まず1ページ目ですけれども、そもそもバリアフリーについての説明をまずさせていただいた上で、なぜバリアフリーが必要なのか、そして、そのバリアフリーを進めるための基本構想について説明をさせていただいております。

開いて、次の2ページ目ですが、茅ヶ崎市のバリアフリーの進め方や、進める場所についての説明をしております。

次の3ページ目ですけれども、地図を用いながら、茅ヶ崎市全体で取り組むもの、その中でも、みんなで取り組むもの、市役所が取り組むもの、特に力を入れて取り組む茅ヶ崎駅、北茅ヶ崎駅の周りで取り組むもの、その次に力を入れる香川駅や辻堂駅で取り組むものについて説明をしております。

最後の4ページですけれども、茅ヶ崎市の取組例を写真つきで紹介しております。例えば歩道のバリアフリーでは、目の不自由な人が歩きやすいように歩道に点字ブロックをつけておりますのような説明をさせていただきます。

最後に、茅ヶ崎市からのメッセージも込めて、「みんなで支え合い、だれもが安心して過ごせるまちをつくろう」という言葉で締めてございます。

以上が資料4についての説明です。

事務局からの説明は以上となります。

大原会長 : 説明ありがとうございます。

1つ確認しておきたいのは、いわゆる補助教材として学校でも使っていたかどうかという話があったんですが、心のバリアフリー推進ということの視点で、それはそれとして進めていくということでもいいですね。やめてしまうのではなくて。

事務局 : やめるわけではありません。でき上がったものを活用できるのであれば、もちろん使っていく予定でございます。

大原会長 : ありがとうございます。ということで、前回までかなり詰めてきていたものがありますけれども、それはそちらの目的のためにさらにシェイプアップしてつくっていくことはできそうですということで、今回、やさしい版として提供するの、今回、さらにやさしくされたと思いますが、このバージョンのものをまずつくると。こちらに関しては早めに印刷などをして、実際に普及させたいということかと思っております。ご意見、ご質問をお願いしたいと思います。

今井委員 : 今井です。やさしい版を作成していただきまして、ありがとうございます。

先ほどの説明では、ユニコードのところがなかったんですけれども、まず、私たち視覚障がい者といっても、全盲の方もいらっしゃいますし、弱視、全盲ではないけれども少し、文字は大体ほとんどの方は読めないという方が多いわけです、こういうパンフレット、4枚ものにしても、紙では私たち、

読めませんので、なかなか理解できないのですけれども、今回はユニコード、あるいは音声コードと言われるものを下のほうの端っこにつけていただけるといふことで、大変ありがたく思っています。

この資料を、紙では読めないのですが、その前にメール添付でワードで送っていただいたりしているのですけれども、なかなか段組とかがあると、私たちは基本的に i P h o n e で読むことが多いのですけれども、なかなかそのままの形では出てこない、形が崩れたり、あるいは読む順番も i P h o n e 任せなので、目で見ると読むのとは結構違うと、なかなか内容が理解できなかったということがあります。テキスト版、文字だけの部分を送っていただいて、それで理解が非常に進みまして、これでよいのだろうというふうに私も思っています。

今回この印刷物ができ上がったとして、その後、多分、ホームページにも載せるのだろうと思いますので、そのときにも、これをPDFにしても我々はちょっと見にくい、理解しにくいということになるので、テキスト版で上げていただけると、視覚障がい者の理解がしやすいかなというふうに思っています。

以上です。

事務局 : ありがとうございます。事務局の木村です。

視覚障がい者の方向けの情報保障の点ですけれども、すみません、先ほど説明が不足しておりましたが、2点考えております。1つは、紙の印刷物に、右下、ユニボイスというふうに書かせていただいておりますが、こちらに二次元バーコードを記載する予定です。こちらをスマートフォンで読み込むと音声で読み上げるといったような機能をつける予定でございます。また、2つ目としまして、ホームページ上ですけれども、今井委員からも今お話がありましたように、テキスト版を公開する予定でございますので、それを読み上げ機能で音声で読み上げるといふような対応をしていきたいと考えております。

上杉委員 : 上杉です。ご意見をいろいろ聞いてくださり、ありがとうございました。その上で、これを拝見して、何個か言っちゃっていいですか。

簡単な言葉にさせていただいたのはありがたいんですが、例えば1ページの一番下の「茅ヶ崎市バリアフリー基本構想とは？」の下の2つ目の黒ポツの「茅ヶ崎市は2015年9月に「茅ヶ崎市バリアフリー基本構想」を作り、2023年8月に新しくしました」という文章があるんですが、これはふつうの方が読んでもよく分からないですよ。ここに例えば、2023年8月に新しく作り直しましたといふような言葉を入れていただくと、もうちょっといいかと思えます。

2点目の下のほうの「茅ヶ崎市のバリアフリーを進める場所」の2つ目の黒ポツ、「特に茅ヶ崎駅や北茅ヶ崎駅のまわりと、その次に香川駅や辻堂駅のまわりは、力を入れてバリアフリーを進めます」、これはちょっと日本語

的におかしいですね。

2つの要素が入っていると、知的障がいの方は分かりにくいので、2つに区切って、特に茅ヶ崎駅や北茅ヶ崎駅のまわりを進めます。その次に香川駅や辻と植木のまわりに力を入れてバリアフリーを進めますほうがいいと思います。

あと、今井さんにお聞きしたほうがいいのかなと思うんですが、色についてもメリハリのついた色にさせていただいてありがたいと思ったんですが、3ページによく使われている青い色ですね、私の知り合いで、視覚障がいの福祉協会にいらっしゃる女性の方が、この青は見にくいんだとおっしゃったんですね。もう少し濃くしてもらいたい、もしくはほかの色に変えてもらいたい。この青をできたら、ほかの色に変えていただくとありがたいと思うんですが、私より今井さんのほうがご存じと思いますので、確認の上、よろしく願いいたします。

以上です。

事務局 : 事務局の木村です。貴重なご意見、ありがとうございます。表現のところはぜひ参考として直していきたいと思っております。

また、色の件につきましても、見えやすい色、カラーバリアフリーのところを勉強して対応していきたいと考えております。ありがとうございます。

牧野委員 : 肢体不自由児者父母の会の牧野と申します。

私は、分かりにくいなと思ったのは、3ページ全体が何を言っているかちょっとよく分からないので。5つ四角があるんですけども、「みんなで取組むもの」という四角と「取組」という四角があって、「取組むもの」、心のバリアフリー、建物、公園、標識、案内板、道路、歩道と書いてあって、心のバリアフリーに取り組むんだなは分かるけど、「取組むもの」、建物、公園、標識、案内板、道路、歩道はよく分からないので、みんな、これって分かりますか。私だけですか、よく分からないのは。例えば右ページだと「取組」、標識、案内板、歩道、駅、電車、香川駅、これ、分からなくて、標識、案内板、取組ということは、標識、案内板をつけるのかと思うんだけど、その同じ枠に、歩道、駅、電車と書いてあるのは、歩道、駅、電車は最初からあるよねとか、これをどうするんだろうみたいな、私にはそんなふうに思えるんだけど、この書き方はどうなんですかね。並べてある言葉が一貫性がないというか、駅、電車とかと、案内板、標識とかは別物ではないかなと思ったりするんですけど。

事務局 : 皆様、いかがでしょうか。事務局の木村から、どういうつもりで書いたかというところだけお答えさせていただきますけれども、基本的にやさしい版の目的ですが、概要版に書いてあることを、知的障がいのある方にも分かりやすくするというところですので、概要版に書いてある内容が基になっております。概要版のどこの部分に書いてあるかといいますと、今、画面で共有させていただいておりますが、右側のところに赤い枠と青い枠と特定事業と

いうふうに事業が並べてあるんですね。ここを表現したのが3ページの部分なのです。これは茅ヶ崎市全体が取り組むものというふうにやさしい版では書いておりますが、その中で「みんなが取り組むもの」というのが、概要版の中では市民、事業者、行政が主体となって取り組む事業のことを指しております。また、「市役所が取り組むもの」というふうに言い換えておりますが、これが概要版では、市が主体となって取り組む事業のことでございます。それぞれ、その中に、「市役所が取り組むもの」として、心のバリアフリーの推進だったり、情報のバリアフリーの推進、また、人的対応、接遇の推進というふうに概要版ではあるんですけれども、人的対応とかというのはなかなか難しい表現ですので、そこを窓口という言葉に言い換えたり、また、そのほか、施設などのバリアフリー化の推進という言葉があるんですけれども、施設というところがなかなか難しいというところで、建物や公園という、具体的な、より明確な言葉に置き換えております。それらの対象となるものについては、バリアフリーを取り組んでいきたいと思いますというように列挙をしているのが、この3ページ目の意図でございます。

牧野委員 : 分かりました。理解しました。理解しましたが、やっぱりここで、窓口、建物、公園というのはちょっと不親切じゃないかなと私は思うんですけど。窓口の対応という字は難しいのかな。窓口、建物、公園と、名詞ですよね。場所の名前とか。それを「取り組むもの」の中にまとめて入れちゃうというのはちょっと乱暴じゃないかなというふうに思います。「取り組むもの」という四角と「取組」という四角がどう違うんだろうみたいなのが、そこも、私は、ぱっと見た感じ、疑問で、ここへ、駐車場、公園、海水浴場みたいに名前を並べるとするのは、何を言いたいのか、私には分からないので、もうちょっと工夫が必要かなと思います。名詞の数を減らしても、例えばみんなが使いやすい公園にするみたいな文章にしたほうが、言いたいことがよく伝わるかなと、そんなふうに思いますの。あと、全然別の話なんですけれども、私は専門家じゃないのだけど、ぱっと見た感じ、このパンフレットは物すごく見にくい感じがして、フォントとか、字の行間の問題じゃないかなと思うんですけど。このままもし印刷する予定なのだったら、デザイナーの人とかに相談したほうがいいんじゃないかなみたいなことも思ったりするんですけど、皆さん、どうでしょうか。私だけの感じかな。何となく行間とか、位置の置き方とか、自分的にはすごく見づらい感じはします。

上杉委員 : 上杉です。行間に関しては、私たち、意見をしたような気がして。ちょっと覚えていないんですけど。そのときに比べたら読みやすくなっていると思うのです。ただ、牧野さんが言った3ページ目については、牧野さんの言っていることはよく分かって、恐らく概要版をなるべくきちんと反映しようと思った場合に、このような感じになったと思うんです。自分もわかりやすい版というのをつくりかけた経験があるのが分かるんですけれども、勇気を持って削除するという作業がすごく大事で、これについても、分かりやすく

するとしたら、例えば市民、事業者、行政、吹き出しの中にこの内容を書いて、これらをよくしますとか、下のほうは市役所と書いて、こういうのを進めます、よくします、右も、茅ヶ崎駅、北茅ヶ崎駅と書いて、同じように、香川も辻堂もそうですね。もう少し、要らない言葉を取っていくと、分かりやすくなるのかなと思います。

牧野委員 : フォントとかどうですか。私には読みづらいんですけど。

上杉委員 : 字体ではなくてフォントですか。

牧野委員 : どうなんだろう。やっぱり行間かな。行間を広げたんですか。

上杉委員 : 見たらあまり広がっていなかったんだけど、行間を広げると、ページ数が増えるだろうなと思ひまして、それはそれでばさばさする。だから、さっきも言ったように、内容を勇気を持って割愛するという作業がどうしてもやさしい版には必要になって、じゃ、何を残すかという優先させる作業も重要になると思ひます。また後ほど相談させていただきます。

斉藤委員 : 意見を申し述べたいと思ひます。

牧野さんの言われていることは私も大筋賛成というか、なるほどなと思ひて聞いていました。それで、3ページの言葉は、これだけだと誤解というか、説明が不足しているなど。要は、全体の取組において具体的な対象施設を挙げるとこういうものですよと、対象施設は挙げたんですよ。心のバリアフリーは別なんですけど、施設じゃないから。そう言われると、牧野さんが言われるように、何で、標識、案内板、歩道、駅、電車が取組だなんて、電車、直しちゃうの、そんな話も出てきちゃう。見た人が分からないですよ。まずは、対象施設を挙げた、あるいはこれを生かすのであれば、建物はどうする、公園はどうするという整備内容を入れていく。どっちかと思ひます。これは牧野さんの言われたことは私は共感しますというか、ちょっと誤解を生んじやうんじやないかなと思ひました。主要な施設だけけど、こういったものですというふうに割り切っちゃうか、それとも、「取組」と言っているんだから、取組でも重要な建物はどうします、公園はどうします、標識はどうしますと、そこまで入れちゃうか。全部書いていたら本当に大変なんだよね。そのところは、これも牧野さんが言っていたんですけど、レイアウトは、私も、ざっと読んだときに、頭に入ってこないんですよ。どこをポイントにやっているのかというのがちょっと見えてこないんで、レイアウトというのはすごく重要なので、文字の大きさ、スケッチの配置、レイアウトを、専門家がどうか分らないんですけども、レイアウトの検討というのも併せてやっていただくといいのかなと思ひました。参考にしてください。

事務局 : ありがとうございます。事務局の木村です。今、皆様からご意見があった、大きく2つだと思ひています。1つ目、3ページ目のところですけども、言葉の列挙だけではなくて、もう少し言葉を補足するような形で修正していきたいと考えております。その際には、全てを並べるのではなくて、思い切った削除といいますか、内容の淘汰というのにも必要になるかなと考えており

ます。

斉藤先生がおっしゃったように、より具体的な話というのは、3ページ目の中には書き切れない部分になってきますので、4ページ目、最後のところですが、取組例として、少し詳細に書くようなスペースを設けておりますので、全てではないですが、その中で具体例として4ページ目に挙げていきたいと考えております。

また、大きく2つ目の話ですが、読みやすさ、見やすさのところ、行間ですとか、レイアウトのところは、様々な方のご意見を聞きながらブラッシュアップしていきたいと考えております。

以上です。ありがとうございます。

柏崎委員 : 老人クラブの柏崎です。

皆さんからいろいろ細かい話が出ていますので、申し訳ないのですが、クラブの中でも、バリアフリーという話をすると、バリアフリーって何という声がかかなりあって、バリアフリーってどういう意味なのかというのが分からない人がかなりいっぱいいるんですよ。それで順序が逆になっちゃったんですが、1ページの「バリアフリーとは」というところで、「くらしの中にある困りごとをなくすという意味」、こういう漠然とした、困りごとをなくすことがバリアフリーではないはずなんですよね。バリアフリーは移動時の円滑化というのがバリアフリーで、移動時以外の困りごとについてはバリアフリーとはあまり言わないんじゃないかと思うんですよ。ここのところの、こういう困りごと一般でくくっていいのかどうかというのが、ちょっとひっかかるんですけどね。これは前からいろいろ出ているように、バリアフリーは移動時の円滑化かというのがバリアフリーなはずなんですよ。困りごと全般をなくすのをバリアフリーとは言わないと思う。そこところがひっかかるので、皆さん、どういうふうに感じられるか。

以上です。

上杉委員 : 先ほど今井さんがおっしゃったように、視覚障がいがあれば、そのことでバリアがあるわけなんですよね。それを例えばユニボイスでとか、そういうこともバリアフリー。移動だけではありませんというのが私の意見です。

事務局 : 事務局の木村です。もちろん、柏崎委員のおっしゃるような移動に対するバリアももちろんそうですし、制度上のバリアであったりとか、情報のバリアであったり、様々なものが、今、上杉委員がおっしゃっているように、生活の中でございますので、それを平たい表現で表したのが、「くらしの中にある困りごとをなくす」というふうに今回は表現させていただいてございます。具体例として、例えば、車いすを使う人が動きやすいように、移動の際に、エレベーターをつけることなどですというような形で、移動についても具体例を少し添えて、バリアフリーについて説明をさせていただいてるところでございます。

石井委員 : 柏崎委員のおっしゃることは、この協議会の要綱の中に明確に位置づけら

れているのです。この協議会の目的、円滑化の効率に関するということで位置づけられているので、もしそれを位置づけると、第一義はそれを説明しなければいけないと思うんです。柏崎委員がおっしゃるように。ただ、協議の中で、心のバリアフリーとか、ほかのバリアフリーもあるわけですね。それはやっぱり見逃さないということで、付加的に、あるいはそれと同じような形で、我々も検討してきたという説明じゃないですかね。この協議会の基本要件に位置づけられているので、それを見失ってはまずいのではないですかというのが柏崎委員のご指摘だと私は解しました。

上杉委員 : 移動等と書いてある。

石井委員 : 等というのは、メインがこっちです。

上杉委員 : 等というのは、宇宙の広がりがある。

石井委員 : そうじゃないと思います。あくまでもメインがどこである。それに附属ということですから、この協議会のメインは委員おっしゃるように、そこがやっぱり。それを外しちゃうと。

上杉委員 : 外す気は全くない。移動は大事なことなので。ただ、それだけではないという。移動は否定していないです。

柏崎委員 : 先ほど言いましたように、困りごとというと、全部入っちゃうんですよ。ここのイラストや何かに全部出るのは、大体が、移動時における障がいイラストに全部入っているんだね。心のバリアフリー以外は。心のバリアフリー以外は全部移動時なんですよ。心のバリアフリーだけが、上杉さん言うように、心のバリアだから、それはちょっと違うんだけど、これはあくまでもこのイラストがほとんど全て移動時の困りごとについてなので、イラストは全部。だから、心のバリアフリーだけは確かに違うけれども、そういう意味では、範囲が広過ぎるかなという思いがするんですけどね。バリアフリーって何という質問に対して、困りごとを処理するんですよというのはちょっと乱暴かなという感じは私しました。

上杉委員 : 確かにイラストの問題ですね。どうしても書きやすいバリアフリーを表示することが多いので、そうすると、移動になっちゃうんですよ。というので、そういうふうに思われるのも仕方ないかなと思いますけれども、実際は広い意味ではないかと思います。

柏崎委員 : 確かにバリアと言うと、困りごとが全部入るんだけど。我々が言っているバリアというのは移動時の円滑化というのがもともとのメインだと思いますけどね。以上です。

沼田委員 : 主任児童委員民生委員の沼田です。よろしくお願ひします。

私は主任児童委員とって、子ども担当の民生委員なんですけれども、前のパンフレットより、字の間隔とか、ルビの振り方など、分かりやすく、よくなったなと思っております。委員の有志の方がお集まりいただいて考えてくださったと思うんですけども、やはり字の間隔とか、色使いは、私は

よくなったなと思っております。また、それこそ、前のパンフレットというか、資料にありましたように、写真などが入っていると、より分かりやすいということをしごく言いたかったんですけども、私はこのパンフレットが新しくできたのを見まして、淡々としているようですけれども、私は学校のバリアフリー教室のほうにお手伝いしたんですけども、子どもたちに考える力というか、みんな、どう？と聞いたときに、それぞれの意見があって、この資料の中というか、パンフレットの中に、みんなで取組むもの、心のバリアフリーはもちろんだけど、建物、公園とあるけど、みんな、どう思う？というような投げかけができる資料というか、パンフレットだなと思って、淡々としている中にも、子どもにとっては、一般の市民の方たちとはまた別に、子どもたちにとっては、考える力を与えるにはいいなと思いました。それこそ、窓口、建物、公園って、しごく分かりにくいんですけど、市役所が取り組んでいるものの中にバリアフリーがあるけどというふうに投げかけると、窓口、市役所の窓口だったり、公園の入り口の窓口だったり、いろいろありますが、淡々としている中で、何度も言いますが、考える力、考えてごらん、考えてみてというのには、たくさんのいろいろな換言があって、その意見が出るということからしても、私はいいなと思いました。それこそ、最後にあります、最後のページの写真、カラーで載ってまして、「みんなで支え合い、だれもが安心して過ごせるまちをつくろう」、全てがこの一言がなというふうに感じました。私はとてもいい出来だなと思っております。

以上です。

大原会長 : 大原です。それでは、いろいろご意見が出たかと思えます。

瀧井委員 : 育成会の瀧井と申します。

私は、このパンフレット、例えば知的障がいのある方が、はいと渡されて、一人で読み解く理解というのが、どんなにやさしくしても、手帳がB2の一番軽い方でもまず私は無理だと思うんです。そして、どういうふうにするか考えたときに、支援者の人とか、保護者とか、読んで一緒に考えるということに使うのには、沼田さんおっしゃったように、しごく分かりやすいなと思うんです。だから、一人で全部、これを渡されて、読み解くというよりは、一緒に考えるものというふう考えたらいいかなと思います。

大原会長 : よろしいでしょうかね。まず、パンフレットの構成に関して、ご意見が集中したのが、今、ちょうど出ています3ページ目です。1つ事務局にお聞きしたいのは、ここでの趣旨は、それぞれの主体が、つまり、行政、市民とか、事業者という、それぞれの主体が役割分担みたいなものを考えつつ取り組んでいくということをここで表現したかったのかなと思うんですけども、まずはそれでいいですか。事業の主体というか、それを分けてここで説明したかったという。

事務局 : そうですね。事業の主体と、その主体が取組の対象とするものを示した図となります。

大原会長 : そのこのところのこだわりを、先ほどから勇気を持って削除する対象にはならないかなというのが1つです。つまり、誰がやるかというのは、実際に利用する人にとってはどうでもよくて、基本構想として施策としては大事なところだとは思いますが、実際どういうことが行われるかということを楽しめる立場の一般市民にとっては、誰かやってくれればそれでいいわけだと思うんですね。なので、そのこのこだわりがないと、ここ、随分すっきりできるかなと。すっきりというのは、4ページ目のあるような形で、それぞれの場所でどんな取組が行われますよというのを、いろいろ建物だったり、公園だったりというところで、できる限り、スペースの都合上、入る限り、こんな場面ではこんな形、こんな形というふうに挙げていったらいいんじゃないかなというふうに思いましたけど、いかがですかね。

事務局 : おっしゃるとおり、情報を受け取る側の方にとっては、誰がやるというのはそこまで大事な要素ではないのかなと思いますので、その視点で考えると、削除できる部分だったり、レイアウトを見直せる部分というのは出てくるかと思しますので、参考にしていきたいと思います。

大原会長 : そういうことで、もう一回、整理し直すと、つまり、どういう場所で、どんなバリアフリーが行われるかということをも具体的にできるだけ写真などを入れながら表現するというページにしてもらえるといいかなと思います。

エリアの話は、必要であれば地図をつけて、ここでは色分けでいいと思うんです。項目ごとに全ての地域でやるとか、どこどこの駅の周辺でやるものというような形で色分けをして、実際に取り組むバリアフリーの項目を分けてあげればいいんじゃないかなと思いました。

それで、この項目にもありますように、場所ごとに表現できないものというのが心のバリアフリーとか、情報のバリアフリーは写真は可能かなと思いますけれども、そういうものがありますね。つまり、ものではないもの、かつ、これ、次の課題というか、先ほど皆さんから出てきたバリアフリーの定義についても関わるんですけども、そういうものとして表現できない、移動の円滑化、移動ということだけでは表現できないものというのは実はたくさんあって、そういうところの不便を解消していくということがバリアフリーでは大事だと思いますので、その辺は落とさず入れてもらえるといいなというふうに思いました。

それから、あと、書き方とか、デザインは気をつけてもらうということです。それから、これは確認しておきたいんですけども、大きな課題かと思いますが、バリアフリーの定義ですね、まず私の立場というか、私の考えで言いますと、最初に挙げられているような、困りごとをなくすということがバリアフリーのやはり目的になっているというふうに思います。移動円滑化という、移動等ですよ、移動、アクセシビリティというのは、出発点にすぎなくて、バリアフリー化を進める上で、まず最初に始める第一歩のところだと思います。なので、具体的に国もこの法律の下に心のバリアフリーもあいま

すし、駅などに関しては、役務ですね、駅員さんの接遇など、そういうようなものも規定していますし、もちろん情報なんかもありますから、必ずしもアクセシビリティという意味での移動だけではなく、情報へのアクセシビリティというのも入りますし、いろいろな意味で、移動という言葉アクセシビリティに変えるだけでも広がります。それから、バリアフリーと言った場合に、バリアという定義を考えると、もっと幅広くなっていくというのが今の動きだと思います。それに対応して、神奈川県も、みんなのバリアフリー条例というのがありますけれども、「みんなの」がついているがゆえに、目的をかなり幅広く持ってきていると思いますので、茅ヶ崎でもぜひバリアフリーの説明のときには、移動に限らないということ、とにかくいろいろ困っている人というのがいますので、最後に出てきた、「みんなで支え合い、だれもが安心して過ごせる」という、ここがバリアフリーの目標になっているというふうに考えればいいのではないかなと。今日のところはその辺の議論ができませんが、そんなつもりでとりあえず進めていただければいいかなと思っています。

ということで、いただいた意見でまたちょっと直さないといけないと思いますが、事務局のほうでまたさらにレイアウトなど工夫していただくということで、また先に延ばしてしまったことになりましたが、よろしいですか。

事務局 : もちろんです。今日いただいた貴重なご意見を踏まえまして、また事務局で作業を進めてまいります。次の予定としては3月になりますが、その前段階でまた任意の参加で結構ですので、ご協力いただける方にはお声がけさせていただきますので、ぜひご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

大原会長 : またその辺のご意見とか、考え方や何かに関しては、なかなかいつも時間がなくて申し訳ないのですが、また追々、話ができればいいかなというふうには思っているところです。それで、学校での活用の仕方なども、削除ということではなく、引き続き、そちらのほうも進めていただくということをお願いしたいと思います。

何か一言言っておかなければいけないみたいなのはありますか。

事務局 : 大丈夫そうです。ありがとうございます。

大原会長 : それでは、なかなか決まらず申し訳なかったのですが、議題2に関しても、そういうことで、もう少し手直しをして、この方針でよろしいので、もう少し内容をシェイプアップしていただくということだと思います。お願いします。

そうしましたら、その他が2件ありますので、残りの時間、報告いただきながら、意見があればということをお願いしたいと思います。

3. その他

(1) パーキング・パーミット制度について

(2) 委員の改選について

大原会長 : 1つはパーキング・パーミットの制度についてです。よろしくお願いいたします。

事務局 : 事務局の木村よりご説明させていただきます。

資料は特にご用意しておりませんが、その他の1つ目としまして、パーキング・パーミット制度についてご説明いたします。

令和6年11月1日より、パーキング・パーミット制度が開始となります。この制度は、障がいのある方や介護が必要な高齢者、妊産婦、けが人など、歩行が困難な方や移動に配慮が必要な方に対し、あらかじめ利用証を交付し、車両に掲示することで、当該区画を必要とする方を明確化し、駐車区画の適正利用を推進する制度でございます。利用証の種類は2種類、無期限のものと有期限のものがございます。有期限の利用証は、妊産婦やけが人などが対象となります。利用証交付基準などの詳細については、神奈川県ホームページをご覧ください。皆様におかれましては、本制度の周知へのご協力とともに、対象の方の利用証の活用をお願いできればと考えております。

事務局 : その他として、2つ目の連絡事項を申し上げます。

委員の改正についてでございます。現委員の皆様は、令和7年1月17日をもって任期満了となります。よって、本日のメンバーでの協議会は今回が最後となります。今後、所属する各団体へ推薦を依頼することになるかと思っておりますので、その際にはよろしくお願いいたします。市民委員の皆様についても、現在、公募中でございますので、市のホームページなどで応募資料を取得できるようになっておりますので、そちらをご覧くださいければと思います。

事務局からその他の連絡としては以上でございます。

大原会長 : 今の件に関してご質問、ご意見はございますか。

牧野委員 : 肢体不自由児者父母の会の牧野です。パーキング・パーミット制度について教えていただきたいのですが、11月1日からというのは初めて知ったんですが、広報とか、お知らせみたいなのはどんなふうになっているのでしょうかというのが1点と、あと、パーキング・パーミットの許可証を手に入れるための手続はどの窓口でどの手続をすればいいのでしょうか。今、10月だから、11月1日から開始ということで、それが2点と、あと、警察のほうで出している障がい者手帳を持っている人たちがパーキングに止められるみたいな証明書みたいなものがあるんですけども、それとの差みたいなものは分かったら教えてください。

以上です。

事務局 : まず1つ目、周知の方法についてですが、こちらは、まず、県が主体となって今広報活動をしているところでございます。なお、市のホー

ムページにも詳細が書かれておりますので、ぜひそちらもご覧になっていただければと思っております。

2つ目、交付の方法について、11月1日から交付が始まります。交付については、市役所の窓口で交付することが可能ですので、そちらも、恐れ入りますが、市のホームページをご覧いただくか、もしくはe-kanagawaで、ネット申請もできるような形になってございます。恐れ入りますが、詳細は市のホームページをご確認いただきたいと思いますと思っております。

牧野委員 : 窓口はどこですか。
事務局 : 障がい者であれば、障がい福祉課ですが対象によって窓口も変わるんですね。けが人の場合はとか、もしくは妊産婦の場合とかということで、対象によって窓口が変わりますので、恐れ入りますが、ホームページでご確認いただければと思っております。

警察が交付しているステッカーとの差についてのお話は確認させていただくので、牧野様に個別に回答させていただきます。よろしく願いいたします。

大原会長 : ご質問はそんなところでしょうかね。まだちょっと時間があつたんですが、それでは、全体を通じてご意見とかがございましたら、どうぞ願います。

上杉委員 : お時間があるということで、事業所の方にお聞きしたいんですけども、先ほどバリアフリーの定義についてもなかなか理解が進んでいないということがありましたが、この4月1日から、民間事業所の方に義務化された合理的配慮という言葉についてお聞きしたいと思います。事業所の皆さんは、合理的配慮という言葉をご存じでいらっしゃるか、ご存じでいらっしゃるだけではなく、内容も知っているのか、そこをいらっしゃる方々にお聞きしたいのですけれども、いかがでしょうか。当事者側のほうで合理的配慮を進めるという活動を始めているので、参考までにお聞きしたいと思います。

柏崎委員 : 合理的配慮はすごく難しく、どこまで合理的なのかというのが人によって違うんですね。だから、本当と言うと僕も分からないのだけれども、合理的配慮と一言で言うけど、すごく難しいです。誰が合理的なのか、誰にとって合理的なのか、これは上杉さんが言われる、合理的配慮というのは、難しいと思います。出てきた配慮について、これが合理的かどうかをみんなで討議するという格好に一般的にはなるんですね。

上杉委員 : 合理的配慮というのは、一言で言ってしまうと、ご本人がこうしてほしいと言った配慮を指します。

柏崎委員 : ご本人が。

上杉委員 : そうです。もしくはご本人の言葉を代弁できる方ですね。この人はこういう障がいだから、こういう配慮をすればいいだろうとこちらのほうでそ

ういう配慮をするのではなくて、本人からの発信です。そこで行う配慮です。だから、なかなか難しい部分もありますが、それがこの4月1日から民間の事業者に義務化されたんです。なので、事業者の方にそのご理解についてお聞きしたいと思いました。

柏崎委員 : 合理的というのは、みんなが考えて合理的と思ったものが合理的じゃないですか。

上杉委員 : 違います。

若林委員 : 社会福祉協議会の若林です。事業者ということですので、我々も該当するのかなということで一言お話ししたいと思います。

私どもも障がい者の自立支援に向けた相談事業をやっておりますし、またはホームヘルプサービス、広く言うのであれば、権利擁護に関する事業等もしております。当然のことながら、障がい者への合理的配慮という視点は、我々の法人内でも、毎月の会議の中等で確認をしながら、差別等がないように、ご本人の意向をいかに反映していくのかという視点につきましては、新たな年度を迎える中で、改めて確認をしながら進めていきたいということに取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

上杉委員 : ほかに、今日いらっしゃるんでしょうか。タクシー業界の方とか、鉄道関係の方、いらっしゃるれば。

松本委員 : 神奈川中央交通のお客サービス担当、松本でございます。いつもお世話になります。

合理的配慮につきましては、私どもでももちろん、言葉、制度等々については承知しております。ただし、今もお話が少々出ておりますとおり、運転手一人一人に合理的配慮といっても、なかなか理解が進まない部分、また、それをどういうふうを受け止めるかという部分は、賛否両論、いろいろ出てきてしまうので、私どもの会社としては、全てのお客様に快適に安心にご利用いただけるというのが前提でございますので、その前提は覆ることは決してございませんで、合理的配慮云々という部分については、従業員に一つ一つ指示は出しておりません。基本的に、今ご案内したとおり、全てのお客様に快適に安全にご利用いただくということが合理的配慮に直接つながりますので、そういったところで包括させていただいております。

以上になります。

大原会長 : ご意見は、ほかよろしいですかね。

前回、前々回ぐらいにも、合理的配慮の義務化をめぐる、この4月からいろいろと具体的な課題が出てきたかと思うので、その辺は一度皆さんと、どう言えばいいのか、勉強会と言うと変ですけども、話ができる機会は設けてもらえればいいかなというふうに思います。私の聞いている限りでは、かながわ福祉サービス振興会というところがありまして、そこで

県内のいろいろな相談窓口を設けているんですが、それが4月以降、民間事業者の対応に関しての苦情に近いことかもしれませんけど、いろいろな相談が上がっているということを知っています。交通系に関して、例えばごく最近出てきたのでも、盲導犬を乗せてくれないみたいなのが出てきたみたいなのが、僅かなのですけれども、そういう実態が出てきていると思います。それぞれの基本は、先ほど上杉さん言われたように、本人と実際に現場で対応する人との対話が必要なんですけれども、対話以前に、決まりですからみたいな形で門前払いをするというようなことがかなり多くの場面で出てきているように聞いています。というので、ここしばらく、この話題、具体的な事例を基に、いろいろな話題が上がってくるかと思っています。近々、11月2日にバリアフリーフェスタかながわというのが横浜駅のそごうでありますけれども、そこで1時間ばかり時間をもらって、合理的配慮に対する対応の現実ということを大げさですけど、シンポジウムという形で話し合いをすることになっています。というので、ここしばらくはその話題、気にしながら、バリアフリーの検討会でも話題にしつつ、進めていけばいいのではないかと考えています。ぜひ取り上げていただくといいかなと考えているところです。そういう感じで、話題提供ということで、事務局のほうでも受け止めていただければいいのではないかと考えています。

ほか、よろしいでしょうか。大体時間になりまして、次回は現場のほうに伺う予定にしております。

それでは、今日のところは議題をこれでおしまいにしたいと思います。ありがとうございます。

それでは、司会は事務局にお返しします。

事務局 : 大原先生、ありがとうございました。

最後に、今後の会議について、ご連絡させていただきます。

次回の協議会は3月を予定しております。日にちはまだ未定ですが、お早めにご連絡できるようにしていきますので、皆様のご参加をお待ちしております。

また、協議会ではないのですが、市民部会委員の皆様におかれましては、次回の市民部会を1月22日（水曜日）の午後で現在考えております。委員の改選後の会議となります。先ほどの委員の推薦依頼と同じ頃にこちらの市民部会の開催通知をお送りしたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

事務局からの連絡事項は以上となります。本日は皆様、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございました。また今後もよろしくお願いいたします。